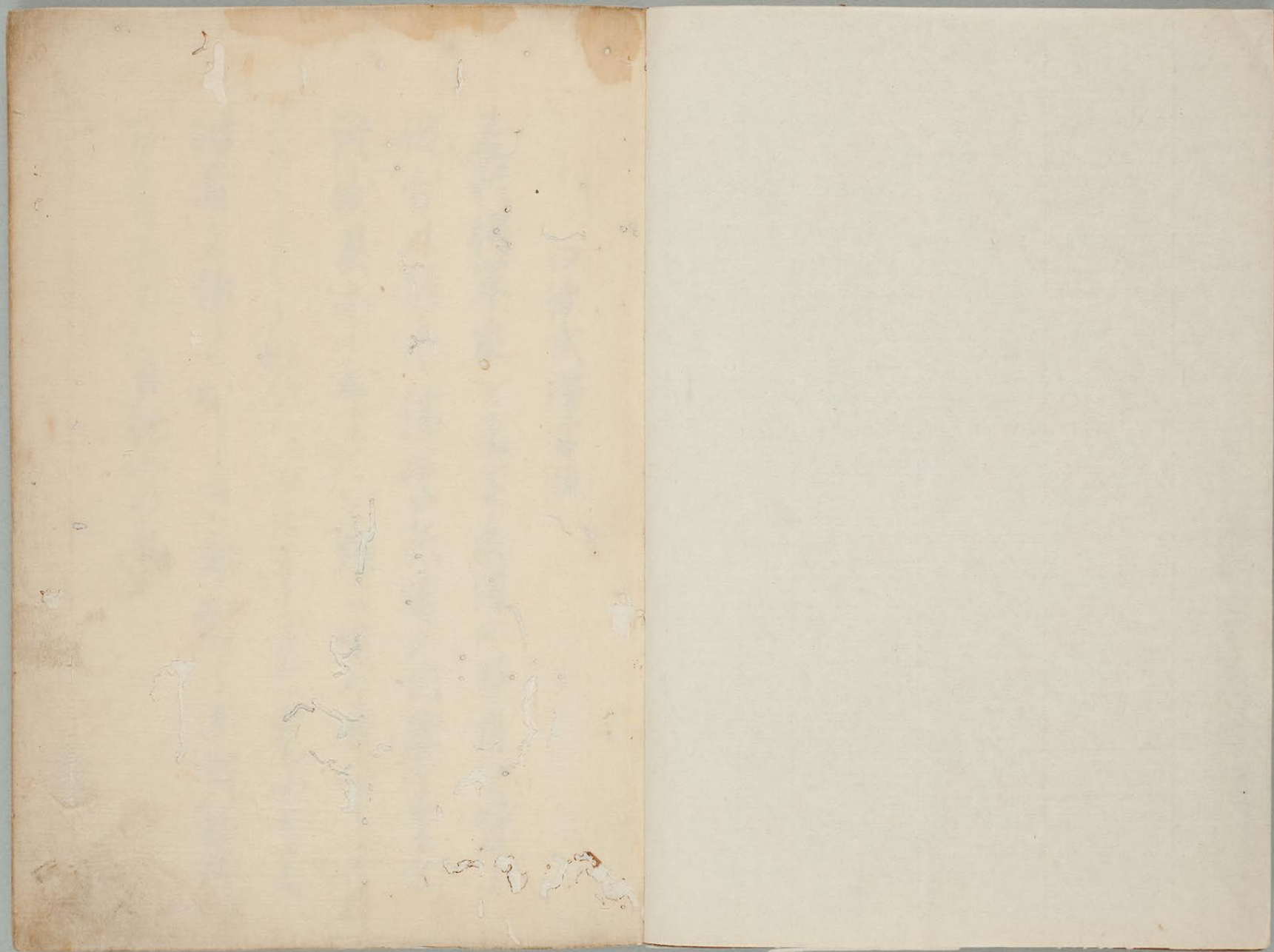


天文中有江州觀音城
武備百人一首

編年大略







35455



江源武鑑書板

屋形將軍家と為美武備の百首と始ふ
 彼前此類を儒學兵書の内要とす亦
 漢武具亦小玉まてを題に定められし
 是よりよく抄ひたり成りしを寛小と名
 作者又信くおしき前あり未世の物語
 百首とくに見記ふのと

天文廿年三月廿二日於江川觀臺城武備百人
一首此和歌

判者形去將の但心用武伎

一以貫之 將軍義輝公

事も妙く香もよくさしつゝまはたそのゆはるの月

明德天皇 後醍醐義實

昔とつゝ思とあらば世はた元久るを一玉を煮てん

中和誠 昌山義忠

内介好く法の中よりやうくみく之よ隔りしれ

母不敬 其作定頼

天地人これ次第と知らるゝ上をうやまひ下をささめ

勅告懲惡 色せし 細川晴元

昔とすれ無成ありし國兵たり氏とまふ世も保らん

時 武田義統 旨

政要此時の一字もよくあつて時とあらば死す亡びのとき

時

朝倉義家

戦の時志一守ふくまうて大まき水も入てり人

秋

長尾右衛門

つちをれうやくをそへていよとをうやまひれり

性善書氣

糸極言者

即ち小性よくして氣をそだて名利のまらぬ契持下

玄極言大極

箕作義賢

大元公もいふおのつらうけすつらうおさのともちり

幸帝

仁

八幡山義昌

仁とてあんなに徳にけいひの理とくしふある心なりり衆

義

大原高保

義なる度んれ割の正くてけりたこいふあしきをもふ

禮

梅戸高実

礼とて天理の節とく候ふれりけりやう道にけりれ

智

仁本高長

智はすく小阿のゆりゆり小動靜の是非けりちとあるは智あり

早而橋立 イセシクメ ヲコル

三井實忠

了らば敵と出せしむるはさめては不之れを打へ

佚而骨之 イシメ ヲツク

池田實政

少くとも討有り扱へ又敵めてたをみうせへ

不意

目加ぬ徳治

敵味方とて軍兵の心必れを討ふをそへ

敵國乱入

沢田忠頼

敵兵小乱入を粘りてとて此國の民を治へ

城責

友領秀忠

責めて地の利とて落ぬと扱へ引て責へ

依時行

木村成時

引て及を地よりしてつらむるもて立ぬよと知へ テタシ

思治時乱 モシ

高文信仲

治也及乱を事とあへて治を治る十六夜月 モシ

利賢則得自由 モシ

山尾秀冬

扱くみより中と治る事小羽國と賢士歎り足

撰清濁 エラフ ヤイ タラフ

子淵定晴

すみじりありあつたぬこれ撰りて書きよみ奥に稿に記す

高忠孝烈 タカチカウ ヒロウ

杉崎氏圃 タカサキ

忠孝れよとあつて挙げよみ娘好物歎あつたる所

昭君之行 シヤウキョウ

伴扈実晴 トナリ

よき人といわれよき人雇ふ理小なりして氏と也よ

亡将之行 モラシラフ ノ ヨコナヒ

永田高持

歎ふく哀れまひて月と字も棠花といひ理ふくされ

文武友道

乾忠圃

又と武友の子使るも名将ハ大なる人といふ水よみ智す

同

平井貞法

戦といふ海ありて美とて今く揚は昔は人なり

命在天

田中宗氏

近くとをいふも好くさるるは何らやせん武士れり

儒釈道 シユ シヤウ ドウ

坂田春子

大空れ元をいふ所のたうはくも道は道はよく

祚妙

綿織冬成

織る心は玉のひかりをたつとを祚よとふらるま

慈悲

和田貞繩

慈悲なる涙の玉は光なりあまふとせしやれは

仁勇

龜井永徳

仁勇は心の深き及血氣を常はさる久らる

儉約

松下長則

有牙の千黒物をましく小清くともて圓きうらま

政要

村井高冬

政要は智徳に富むるよりとくしりるもの切はりしれ

過不及

野村高徳

過不及は可成いやしと聖素のまて送る也れ人

死生

戸田則徳

會者定離生者必滅之をまて行を成ひる小なけし

高卑

尾子貞清

時小あひあふ生るとそう(志)なるてうらす道をもとる

前道

堀名徳

ついで此のたよりしるは兼小津とあり此の邊の

を志

新庄氏忠

と云ふるを志ししより知る所を兼よりして共なるもの

堪忠

三善氏之

堪忠字小波海抄巻とんをさけその一札く

思兼

馬場教資

旨忠は二ともしよはたしむる方とすそ行ふ

分別

津田信祐

智恵チエはさしむるより教ノ津ニのトもト云ハんノ川

法藝

阿用長徳

道ミチこれノのノ心ヲ奥ニ義トハハ好ク心ヲ入テ也ト

行乃

箕浦貞教

よク志ス心ヲ入テ人ノ心ヲ入ル事ヲ利キ也ト

學文

畑貞正

字ナリ又ハ才力を活めル事ヲ志ス也ト

先陣セニ

植村重行ウエノシゲユキ

先陣を軍中の要する後陣とたのむ事ありてし

中備ナカビ

田上実信タノカミサチノブ

中備中よりちの右をさす先後此陣の中ならしめ

後陣ゴジン

今村實範イマムラサキノリ

後陣は先の軍とさすく小志してのりいしむれし

左右備サウブ

森川氏兼モリカワウヂノリ

左右備は先陣の陣を右左のそくは横槍のため

大将

同官信隆ドウカンシノリ

大將を飛鳥の陣の傍して飛鳥とさすめし

横槍ヨコヤリ

白井氏治シライウヂノリ

横やりの陣とさすてあはるまゝあせいの傍に横中を陣

城取

横山頼高ヨコヤマタカ

城丸の方面日さすことゆるむたふさすあはれぬひち

弐軍フタツツ

小川長頼オガワチカノリ

弐軍は小なるいおしく小揃れ人を常此形あり

水園 カネ

文初貞顯 ミヤベ サメアキ

赤かひを浦くのもろくさにくるいむやく備と用よ

軍用 シム ヨラ

鏡高親 カミノ タカチカ

軍用、漆沖小茶袋を此場小りて求り置

旗頭 ハタカシラ

山田満徳 ヤマタ ミツトク

大おのみをとりす旗くらに房をくハ申付ぬ

軍奉行 イシキ フキヤウ

山崎氏家 ヤマザキ ユキノ

いさよたかおのあひたるなりいさよたかおの終をよ

右筆 ウデヒラ

小野貞胤 コノ サダノ

右筆をよみ大形なるぬとと文字のなるべし

学者 カクシヤ

三宅実基 ミヤケ サチモト

字もも軍小つ子細を移めの子ねてうい

武具馬々得夫 ブクイウマウケト

鞍江氏秀 サナエ ユキヒデ

武具も具は清く小く備りて得のむをそく此徳なり

相國旗 アイツノカタ

伊達氏を イダテ イチトヨ

江先にお園の旗をみたり下り下りてあせり

再済 サイゾウ

大野本多盛 オホノモトノモリ

弟此を陰陽二のちの何り アリアゲ

彦板お島 チウヤアイヅ

栗津晴總 アズツノヒツヂ

彦と板お島 冬ヒ

太鼓 タイゴ

磯野定信 イソノサダメノブ

たごおん ラウ

産 カチ

久徳氏三 キウタクウキミ

子となり アカサキ

縣波 トキノミヅ

大宇秀則 オホウウヒノリ

猪原 イノハラ

神陣 カミジン

加地盛隆 カヂモリタカ

野 ノ

方角日取 カウケツヒ

寺田清資 テラタキヨシ

方角 カウケツ

陣 ジン

石田氏成 イシダウヂナリ

陣 ジン

カネ早業 リキネウ ハヤ

三田村氏光 ウヂミラ

力量たつ不業ハ功何事ニ仁常クハおれある

山城 ヤマト

宇野親光 ウノミチヒコ

けりことおアそ美御事何し多山懐ハ行る

平城 ヒラ

上月氏賢 カサキ

平城ハ四方より美御事とうと一方はて款とる

責具 ツグ

多府虎定 タフ

せめ具たは御世ふくつ洞て後とる付きゆりくこと

忠弼 チユ

柏木資冬 カシノキ

忠弼の五不及おと國ハ多人の物ハおのそ

天下泰平 テンカ

後願義實 ゴカネ

のの聖れ御代小立御りまともふもふ

武備百首絶

將軍家志真ニ入る則沛雨持河る

右此類冊ととる上らる

連衆者

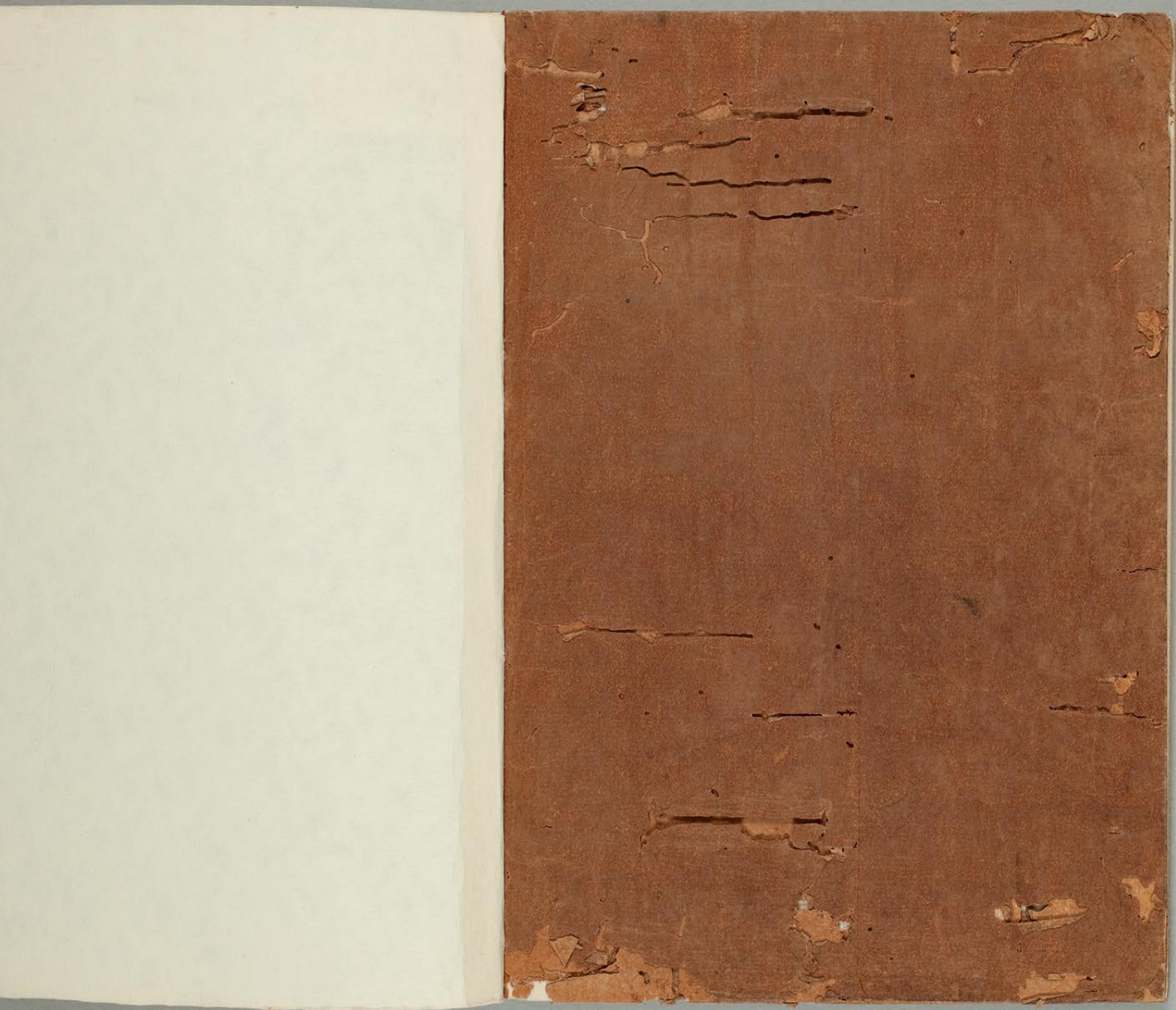
島山家 細川家 武田家 物倉家 長岡家
右々人外ハ皆河川の南ノ屋敷ノ族或旗頭ホ
又ハ長尾友純様ノ外城主ノ家礼等ナリ

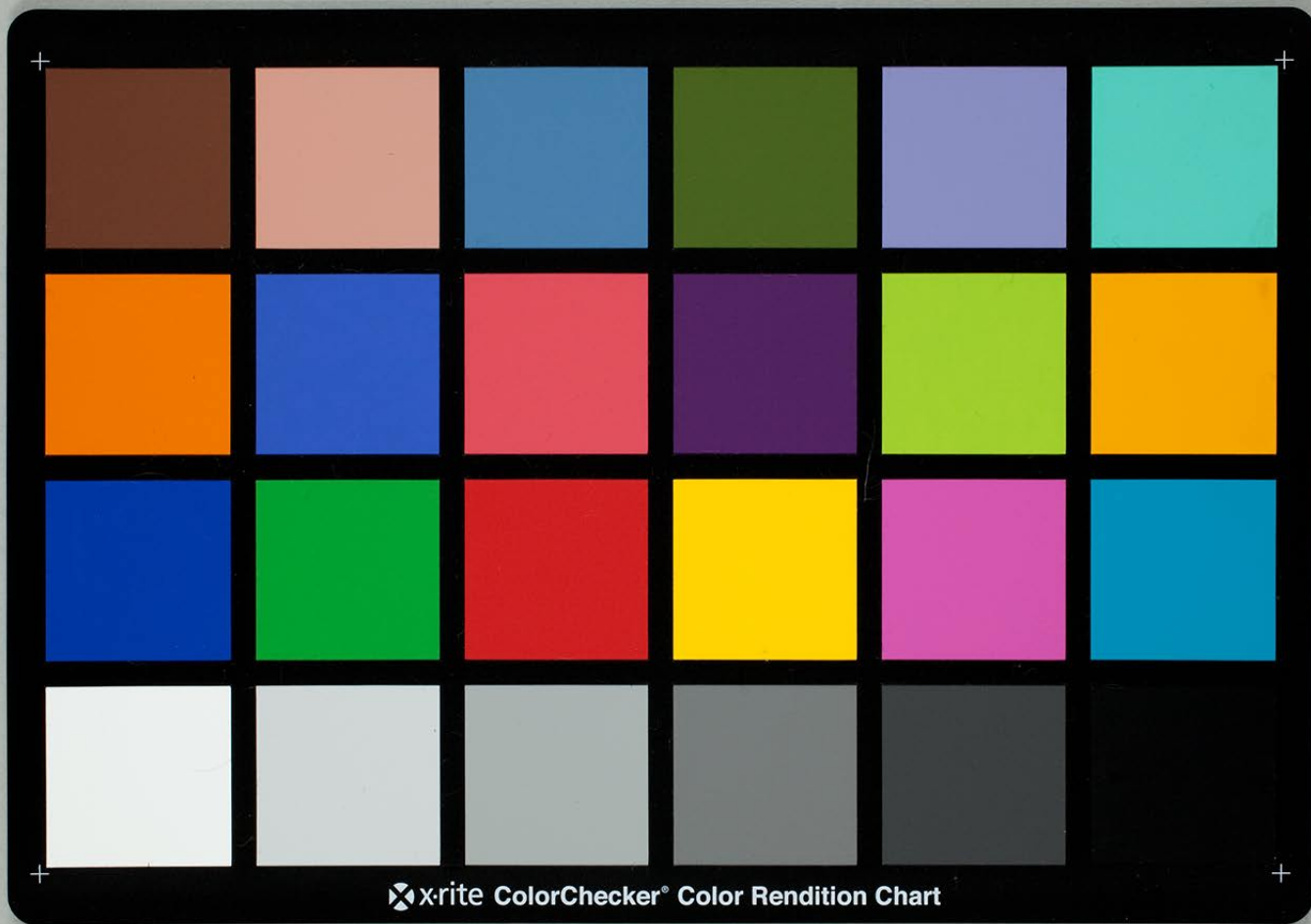
持之
松田茂平源信貞

改信順



六九
③
三





x-rite ColorChecker® Color Rendition Chart